

◆ 講演会活動の報告

会場：町田市民フォーラム 3階ホール

◎R6・11・30

「国風文化」の特徴とその時代

—大河ドラマ「光る君へ」の時代を考える—

(第88回)

講師：木村 茂光氏 東京学芸大学名誉教授

*今回は、参加者 68名<一般 14名を含む>でした。NHK大河ドラマ「光る君へ」の舞台となり、紫式部や清少納言など女性が活躍した「国風文化」の特徴やその時代をわかりやすく解説していただきました。国風文化を考えるうえで、唐風文化や唐物、女性による仮名文字文学の隆盛、職能を優先した新しい人間観の存在などがよく理解でき、さらに関心を深めることができましたと思います。



◎R6・4・20 「『小島日記』から見た幕末の諸事件」 (第87回)

講師：小島 政孝氏 小島資料館館長

参加者 97名<一般 19名を含む>

*今回は、史考会創立30周年を記念して行われました。また、コロナ感染数が落ち着き3年半振りに一般の市民の参加19名を含めて開催されました。激動の幕末の諸事件(関東取締出役、桜田門外の変、生麦事件等)を「小島日記」から紐解き、貴重な資料をもとに丁寧に説明されて、理解できたことと思います。



◎R5・11・25 「新たな視点からとらえなおす村野常右衛門」 (第86回)

講師：川崎 華菜氏 自由民権資料館学芸員

参加者<会員のみ>

*講演会当日は、前日の温かさから一転して冬の寒さとなって、参加者はやや少なめで61名(男性:46名・女性15名)。町田市における自由民権家、政党政治家、実業家の村野常右衛門。残された日記や書簡、写真などの資料を通じて、新しい視点から常右衛門を見直し、彼の新しい姿や取り巻く時代の様相に関心を高め、新たな歴史像を描くことができたのではないのでしょうか。

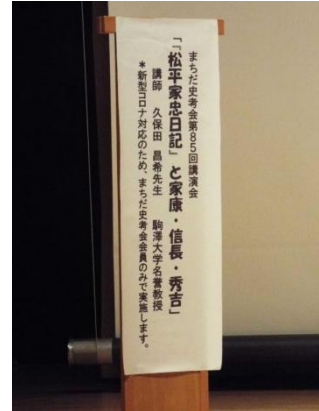


◎R 5・8・26 「『松平家忠日記』と家康・信長・秀吉」 (第85回)

講師：久保田 昌希氏 駒澤大学名誉教授

参加者<会員のみ>

*厳しい猛暑が続くため、高齢者集団の史考会・講演会は、参加者はやや少なめで71名(男性:51名・女性20名)。歴史的にも珍しい戦国武将の松平家忠による18年間に及ぶ日記の分析と紹介を軸に、家康・信長・秀吉に触れる興味ある講演内容。NHKの大河ドラマと結びつき、聴衆の関心は高まり、舞台の映像もわかりやすい。駒澤大学に足を運べば、本物に接することができるとのこと。

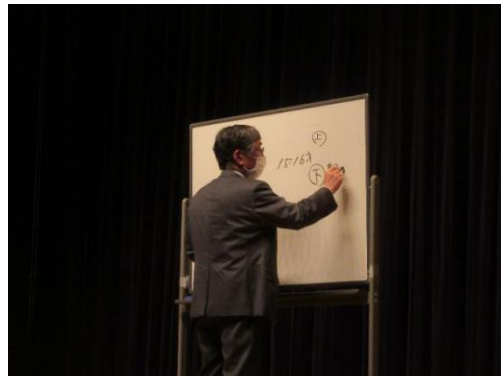


◎R 5・4・15 「承久の乱後の幕府政治と御成敗式目の世界」 (第84回)

講師：木村 茂光氏 東京学芸大学名誉教授

参加者<会員のみ>

*あいにくの雨と続いているコロナの影響で、参加者は84名(男性:63名・女性21名)だった。大学の講義を受けているような講演で、昨年のNHK大河ドラマの復習から始まり、変化の時代をわかりやすくお話しされ、好評だった。承久の乱後の北条泰時等の取り組みと、御成敗式目の内容について詳しい解説を聞き、その後長く続いた武家政権への影響の大きさを再認識させられた。

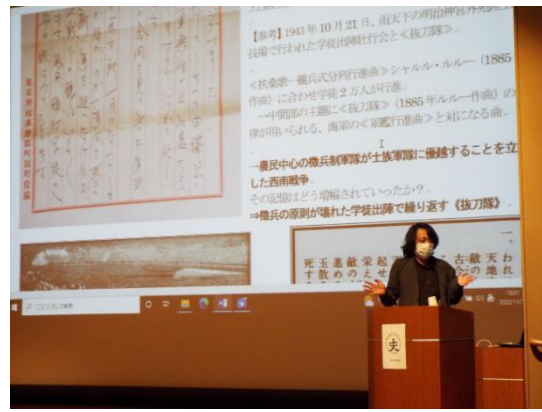


◎R 4・11・26 「戦時期・占領期・復興期を生きた町田の人びと」

—戦争と占領はいかに都市近郊農村を変貌させたか— (第83回)

講師：上田 誠二氏 日本女子大学准教授 (元 HATS 担当者・講師) 参加者<会員のみ>

*コロナ禍でもあり、参加者はやや少なめだったが、豊富な写真や映像、ギター演奏を取り入れ、身近な町田市内の大きな変化の時代をわかりやすく話していただいた。銃後を支える女性として軍需工場で働いた当時の高等女学校生と特攻隊員との関わりを示す新資料も提示され、胸を打つ資料も多く、続編実施を願う声がアンケート用紙に複数記されている。



◎R 4・4・16 「町田市はどのように生まれたのか」

—誕生の経緯を人びとの声にさぐる— (第82回)

講師：松崎 稔氏 町田市立自由民権資料館（学芸員）参加者<会員のみに>

